

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 20 日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593514

研究課題名(和文) 地域密着型在宅ケアの推進と看取りシステムの構築

研究課題名(英文) The promotion of community-based home care and the care system

研究代表者

狩谷 明美 (Kariya, Akemi)

県立広島大学・保健福祉学部・准教授

研究者番号：50413464

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：在宅ケア推進研究の成果は以下の通りである。在宅医療介護スタッフ用の退院調整連絡シートの作成、三原市の慢性腎不全患者地域連携ケアシステムの構築、栄養指導内容の検討、1/Creatinin値の改善、名古屋地区緩和デイケアサロン運営、QOLの向上、在宅看取りを経験した家族の調査により呼吸困難のケアに対し満足度が低かった。在宅高齢者の呼吸訓練機器「吹き戻し」の開発、県内訪問看護師と家族の調査から24時間電話相談が家族の満足度を高めていることが明らかになった。パークス博士のグリーフケア市民講座：200名、専門職研修：100名、訪問看護師・訪問介護員への看取りのパス(LCP)STAS-Jの研修を実施した。

研究成果の概要(英文)：We conducted 7 projects in order to integrate the community-based home care and the care system. Results is as follows (1) Creating discharge coordinate database for home care staffs (2) Coordinating palliative day care in Nagoya. The participants of QOL were improved. (3) Mihara city chronic kidney disease patients with regional cooperation network established and revised nutrition guidance. Participants improved their 1 / serum Creatinine. (4) Family who experienced terminal home care reported the difficulty of caring dyspnea. We developed respiratory rehabilitation tool: Blowout. (5) 24hour telephone consultation by nurse improved the satisfaction of family who terminal patients at home. (6) Organizing two grief care lectures by Dr. Colin Parkes: 300 residents and professionals attended the seminars. (7) Organizing lectures of utilizing the Liverpool Care Pathway and STAS-J for visiting nurses and home care providers.

研究分野：高齢者看護

キーワード：看取りケア 地域包括ケア ケアの質の評価 高齢者 在宅ケア グリーフケア 多職種連携カンファレンス

1. 研究開始当初の背景

高齢化の急速な進展や疾病構図の変化の中で、わが国の医療は施設ケアから在宅ケアへと政策が移行している。しかし、在宅療養者が在宅で最期を迎える人は12.4%と、欧米に比べて極度に低いのが現状である(厚生労働省人口動態調査,2009)。地域には在宅支援の適切な体制が整備されているとは言えず、福祉専門職に対する継続教育の提供も十分ではない。

在宅療養中の高齢者と家族は、ライフ・プロセスの途上で、ADL機能の低下と住み慣れた自宅から施設への転居という身体的・心理社会的喪失を経験する。当事者と家族がともに、不安や揺らぎを抱えながらの生活を余儀なくされている。

病院や施設でのケアから在宅重視へと移行し、先進的な試みを考察しつつ、在宅ケアを可能とする在宅移行の調整 喪失への緩和ケア 栄養・呼吸機能の評価と介入④看取りのガイドラインと意思決定の支援 終末期の難渋する症状緩和などへの事例を多職種で検討しつつ、支援体制の必要条件を整理し、在宅ケアサービスの充実のためのシステム構築とツールの作成が求められている。

2. 研究の目的

本研究は、病院内多職種連携カンファレンスの実施を参照し、在宅における他職種連携カンファレンスを充実させ、在宅ケアの質の向上を目的に、看取りに焦点を当てた教育と実践のシステム構築を検討するものである。

終末期高齢者に対して、在宅で安心して質の高いケアを継続して提供する為に、訪問介護員用の終末期アセスメントシートの作成を行う。医療介護連携の要である訪問看護師・居宅介護支援員(ホームヘルパー)に対して、終末期継続教育のプログラム(リバプールパスウェイとグリーンケア)を提供する。在宅における多職種連携カンファレンスを実施する。その効果を、在宅終末期高齢者の変化とSTAS-J (Support Team Assessment Schedule Japan)を用いて検証する。研究の成果により、医療介護連携教育プログラムが地域密着型の新たな在宅終末期ケア・アプローチの質の向上に寄与するものである。

3. 研究の方法

平成24年度：在宅医療介護の関与者による多職種連携カンファレンスを行う。病院看護師・訪問看護師・訪問介護員への看取りのパス(リバプールパスウェイ)の研修 一般市民向け・専門職向けグリーンケア研修実施。

平成25年度：医療介護連携カンファレ

ンスを継続。訪問看護師・家族を対象に看取り期の難渋した症状を調査 グリーンケア・看取りプログラムの精査。

平成26年度：医療介護連携カンファレンスを継続 在宅高齢者の栄養指導 慢性腎不全患者の看取りのガイドラインを活用した看取りの事例検討。

平成27年度：グリーンケア・プログラムの調査、グリーンケア・カンファレンス実施。

4. 研究成果

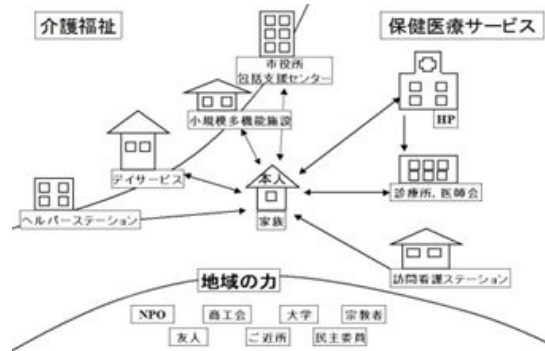
在宅での安楽な看取りを迎える為のツールを開発した。

(1)在宅医療介護スタッフが用いる退院調整連絡シートの作成

(2)名古屋地区緩和デイケア・サロンの運営 QOLの向上が認められた。

(3)三原市慢性腎不全患者のネットワーク構築、栄養指導内容の検討。

1/Creatinin値の改善と医療費削減効果が認められた。

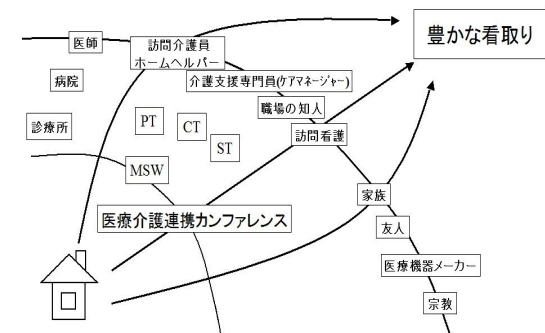


(4)慢性腎不全患者の維持血液透析見合わせの意思決定プロセス・ガイドラインを用いた事例検討

(5)高齢者の呼吸訓練機器「吹き戻し」の開発・普及 保険点数・介護点数に算入請求することが可能となり、研究成果が社会に還元された。医工連携商品として新たなヘルスケア産業の分野が生まれた(特許取得)。

(6)訪問看護師の24時間電話相談 診療報酬加算

(7)パークス博士のグリーンケア市民講座 (200名)、専門職向け研修(100名)



5. 主な発表論文等  
(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

(1)国内論文

阿部まゆみ, 狩谷明美, 「「地域密着型」在宅ケアの推進と看取りシステムの構築に関する課題 - 名古屋地区の緩和ケア - 」, 地域ケアリング Vol.17 No.14, 2015, p88-89

松尾晃樹, 狩谷明美, 「「地域密着型」在宅ケアの推進と看取りシステムの構築に関する課題 - 三原市腎臓病重度化予防・看取りのガイドライン - 」, 地域ケアリング Vol.17 No.10, 2015, p78-79

水馬朋子, 狩谷明美, 住居広士, 松尾晃樹他, 「「地域密着型」在宅ケアの推進と看取りシステムの構築に関する課題 - 地域シーズを活用した在宅治療食配食サービスシステムの構築と医療介護連携 - 」地域ケアリング Vol.17 No.9, 2015, p72-75

肥後加苗, 狩谷明美, 水馬朋子, 住居広士, 「The analysis of the inconveniences among the residents of rural communities: The End of Life Care Needs」, Welfare for the Aged, vol.32, 2015, p97-115

名越静香, 狩谷明美, 「「地域密着型」在宅ケアの推進と看取りシステムの構築に関する課題 - 在宅における看取りの連携パス - 」地域ケアリング Vol.17 No.5, 2015, p60-62

狩谷明美, 「「地域密着型」在宅ケアの推進と看取りシステムの構築に関する課題」地域ケアリング Vol.17 No.4, 2015, p80-82

狩谷明美, 「長寿活力社会と高齢者および専門職の役割」, 日本保健福祉学会学術誌, 査読有, 第19巻第2号, 2013, p18

住居広士, 狩谷明美, 西田征治, 細川淳嗣, 佐藤公子, 水馬朋子, 今泉敏, 「持続可能な長寿活力社会に貢献する保健福祉の役割-多世代共生によるコミュニティで支える少子高齢社会-」, 日本保健福祉学会学術誌, 査読有, 第19巻第2号, 2012, p23-29

(2)国際論文

肥後加苗, 狩谷明美, 水馬朋子, 住居広士, 「The analysis of the inconveniences among the residents of rural communities: The End of Life Care Needs」, Journal of Welfare for the Aged, Vol.32, 2015, p97-115

[学会発表](計21件)

(1)国際学会

狩谷明美, 「Current Evidence Based Practices in Adult Nursing」, The 5th Padjadjaran International Nursing

Conference PINC2016」, 2016.3.18, インドネシア バンドン

ADN Feby Abdilah BM, Lira Septarina, 狩谷明美, 尾崎勝彦, 小林敏生, 神出計, 「Physiological Effect of Forest Therapy: HRV analysis.」, The 5th Padjadjaran International Nursing Conference PINC2016, 2016.3.16, インドネシア バンドン

狩谷明美, 尾崎勝彦, ADN Feby Abdilah BM, LIRA Septarina, 森ダグラス, 寺田雅子, 住居広士, 小林敏生, 佐藤眞一, 「PSYCHOLOGICAL EFFECT OF FOREST THERAPY AMONG JAPANESE OLDER ADULT」, THE 10th IAGG-ASIA/OCEANIA 2015 CONGRESS, 2015.10, タイ チェンマイ

狩谷明美, 尾崎勝彦, L.Septarina, A.D.N Febi Abdilah, 森ダグラス, 寺田雅子, 住居広士, 小林敏生, 「EFFECT OF FOREST THERAPY "HRV STUDY"」, THE 10th IAGG-ASIA/OCEANIA 2015 CONGRESS, 2015.10, タイ チェンマイ

狩谷明美, 松尾計, 水馬朋子, 住居広士, L.Septarina, A.D.N Febi Abdilah, 中林昭策, 「INCLUSIVE CARE: DIET MEAL DELIVERY SERVICE SYSTEM IN MIHARA HIROSHIMA JAPAN」, THE 10th IAGG-ASIA/OCEANIA 2015 CONGRESS, 2015.10, タイ チェンマイ

狩谷明美, L.Septarina, 住居広士, 森ダグラス, 寺田雅子, A.D.N Febi Abdilah, 「Effect of communication in nursing practice」, THE 10th IAGG-ASIA/OCEANIA 2015 CONGRESS, 2015.10, タイ チェンマイ

尾崎勝彦, 狩谷明美, 平野文男, Lira Septarina, And Feby Abdilah BM, Dianni Risda, 神出計, 「The influence of forest walking on mood states of the elderly」, The 6th ICCHNR, 2015.8, 韓国 ソウル

川手麻美, 菅脇博志, 狩谷明美, 和気浩子, 出島直子, 上田孝子, 「Delirium Prevention 'Hiroshima Study」, The 6th ICCHNR, 2015.8, 韓国 ソウル

水馬朋子, 木村要子, 狩谷明美, 「Action and Transformation Effects of Public Health Nurse-Dietitian Collaborative Health Education on Chronic Kidney Disease Patients.」, The 6th ICCHNR, 2015.8, 韓国 ソウル

水馬朋子, 狩谷明美, 「Occupational stress management of a visit nurse practicing at-home end-of-life care」, The 20th IAGG, 2013.6, 韓国 ソウル

狩谷明美, 辰巳美乃, 今泉敏, 「Activation Of The Prefrontal Area Observed by fNIRS: Effect of Shaking Hands」, The 20th IAGG, 2013.6, 韓国 ソウル

(2)国内学会

狩谷明美,「誤嚥性肺炎の予防的ケア」,第35回日本看護科学学会学術集会 2015.12,広島市

阿部まゆみ,「がんサバイバを支える緩和デイケア・サロン(パネルディスカッション)」,日本死の臨床研究会,2015.10,岐阜市

狩谷明美,「腎臓病患者のネットワークづくりについて」第33回尾三因医学会特別講演,2015.6,尾道市

阿部まゆみ,「Promotion and the issue of the palliative daycare salon in medical/nursing」,日本緩和医療学会,2015.6,横浜市

狩谷明美,「腎疾患患者の管理と栄養指導について」第32回尾三因医学会特別講演,2014.6,尾道市

島内節,狩谷明美,「在宅終末期ケアの緊急ニーズと利用者側安定度の関連および安定度に影響する要因-在宅開始期と臨終時の比較-」,日本看護科学学会,2013,大阪市

島内節,狩谷明美,「在宅州終末期における家族と訪問看護師による緩和ケアのアウトカム評価の比較-在宅ケア開始期お臨終期-」,日本看護科学学会,2013,大阪市

島内節,狩谷明美,「終末期に家族および訪問看護師がとらえた緩和ケアニーズの比較-がんと非がん事例の在宅開始期と臨終時の比較-」,第20回日本家族看護学会,2013,静岡市

〔図書〕(計7件)

狩谷明美,住居広土,北大路書房,「保健福祉学」,2015,p18-22

狩谷明美,株式会社ワールドプランニング,「在宅ケアに必要な共通の視点-CFIの考え方-」,在宅ケア学の基本的考え方」,2015,p119-124

狩谷明美,ミルヴァ書房,「在宅エンドオブライフにおける心理・精神的ケア,在宅におけるエンドオブライフ・ケア」,2015,p89-97

阿部まゆみ,青海社,「がんサバイバを支える緩和デイケア・サロン」,2015,総ページ数 186

〔産業財産権〕

出願状況(計3件)

名称:呼気判定器,呼気判定ユニットおよび呼気判定方法

発明者:狩谷明美,木村宜克,大亀勝久,山本博一,藤村良男

権利者:狩谷明美

種類:特許権

番号:特願 2015-070968

出願年月日:2015年3月31日

国内外の別:国内

取得状況(計3件)

名称:吹き戻し

発明者:山本博一,藤村良男,狩谷明美  
権利者:株式会社ルピナス,株式会社八幡光雲堂,狩谷明美

種類:特許権

番号:第5656238号

取得年月日:平成26年12月5日

国内外の別:国内

名称:吹き戻し(取外自在)

発明者:藤村良男,山本博一,狩谷明美  
権利者:藤村良男,山本博一,狩谷明美

種類:特許権

番号:第5878229号

取得年月日:平成28年2月5日

国内外の別:国内

〔その他〕

ホームページ等

6.研究組織

(1)研究代表者

狩谷 明美(KARIYA, Akemi)

県立広島大学・保健福祉学部・准教授

研究者番号:50413464

(2)研究分担者

島内 節(SHIMAUCHI, Setsu)

人間環境大学・看護学部・教授

研究者番号:70124401

阿部 まゆみ(ABE, Mayumi)

名古屋大学・医学(系)・研究科(研究院)

研究者番号:80467323

國定 美香(KUNISADA, Mika)

県立広島大学 保健福祉学部・准教授

研究者番号:30331838

(3)連携研究者

( )

研究者番号: